

大腿骨頸部骨折（人工骨頭置換術）の治療を受けられる患者さまへ

病名:(右 左) 大腿骨:(頸部 転子部)骨折

転院基準：手術創部の状態がよく、全身状態も安定し、合併症（肺炎や心筋梗塞、深部静脈血栓症など）がなく、より専門的なりハビリを継続できる

月/日	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
経過	入院日～	手術前日	手術当日 (手術前)	手術当日 (手術後)	手術翌日 (術後1日目)	術後2日目	3～6日目	7日目	8日目	9日目	10日目	11日目	12日目	13日目	14～21日目	退院・転院	
達成目標	食事摂取が出来て発熱なく状態が安定している		痛みのコントロールができる、脱臼や転倒をせずに過ごすことができる 				痛みのコントロールができる、車椅子に乗ることができる、抜糸を行うことができる				自宅退院もしくは、リハビリ病院へ転院することができる						
治療	骨折の状態によっては、患肢の牽引など必要な処置を行う場合があります。牽引している場合は、手術当日に手術室にて牽引除去します			創部に排液のためのドレーン（管）が留置された状態です。 手術の翌日に抜去します。													
処置				術後1日目の回診で医師が傷の消毒をします。			傷の状態がよければ抜糸を行います(術後 10～11 日目) 10日目が日曜日、祝日の場合は翌日になります。 										
薬剤	これまで服用していた薬の内容が一部変更になることがあります。 		朝から点滴が始まります(術後1日目まで持続点滴です)		抗生剤の点滴は術後1日目まで行います。 痛み止めの点滴を使用します。 (当日、1回～2回 手術翌日3回)		医師指示にて術後2週程度、深部静脈血栓症予防や骨粗しょう症に対する皮下注射や内服薬を使用することがあります(術前休業していた内服は医師指示で再開します)										
リハビリ	ベッド上でリハビリを開始します※リハビリ内容は患者さま個人の体力や状態で違ってくることがあります。		術当日のリハビリはありません			手術翌日からベッド上のリハビリを再開します。血栓予防のため車椅子移乗ができるまでフットポンプを装着します。 車椅子移乗、トイレ排泄、立位、歩行訓練を開始します 											
検査	採血・レントゲン・心電図などの手術に必要な検査を行います。また麻酔をかけるため循環器内科、歯科受診があります。		 検査 後1日目 3日目 7日目 14日目に採血・レントゲン撮影を行います。														
活動安静度	 ベッド上安静です		ベッド上安静です。痛みに合わせてベッドは起こせます。			 リハビリに準じて安静度を拡大していきます。移動や排泄等が難しい場合は必ずナースコールで看護師をお呼び下さい。											
栄養(食事)	食事・水分摂取が可能です	21時以降絶食 	朝から食事・水分を摂取することが出来ません 			手術翌日、腸の動き・排ガスを確認後に飲水食事を開始します。(朝：お粥 昼：常食) 											
清潔	 清拭(身体を拭くこと)、足浴、洗髪を行います 					医師より許可が出たら創部をドレッシングテープ等で保護しシャワー浴(ハーバー浴)を開始します 											
排泄	オムツを装着しベッド上で行います、尿管の管を留置することがあります		術後、尿管が入っています。8時間おきに尿量測定をします			術後1～2日目に尿管を抜去します 		リハビリにて車椅子移乗訓練を行い移乗が安定していたらトイレで排泄を行います(状態に応じ床上排泄や尿器の使用が出来ます)									
指導	手術日決定後に主治医より説明があります	手術に必要な物品を準備します	手術中、ご親族の方は院外で電話にいつでも出れる状態かつ、30分以内に病院に到着できる場所で待機していただきます。院内での待機はできません。また、ご本人がサインができない場合は、手術当日の朝にご家族にご来院いただき麻酔同意書にサインをいただきます。			良肢位保持・脱臼防止の説明を看護師より行います。		術後8日目頃からリハビリ病院への転院、または自宅退院日時を検討します。									
説明	爪切りの確認をします。指輪、義歯、眼鏡等は手術の際外してください		患者さまへ麻酔科医と手術室看護師より説明があります			ソーシャルワーカーや看護師より今後の転院などに関して説明があります。											
その他	下肢静脈血栓症や脳・肺梗塞を予防するため 弾性ストッキング を着用します					 術後2週間経過まで弾性ストッキング着用です。人工骨頭置換術後に脱臼防止のため三角枕を使用することがあります 											

※入院期間や治療内容は現時点で予測されるもので、症状により変わります。

2021年7月7日 クリニカルパス委員会承認